

令和 5 年 4 月 4 日

令和 5 年度 学 校 経 営 方 針

北九州市立小倉南特別支援学校
校長 長谷川 智美

1 教育目標

児童生徒の自立と社会参加を目指し、生涯にわたり生きがいをもって生活できる、心身ともにたくましく生きる人間の育成を図る。

2 本年度の重点

目指す子ども像

- ① 明るい子（「できた」を経験し、自信をもって活動する）「確かな力」
- ② 思いやりのある子（コミュニケーション(あいさつ)ができる）「心の育ち」
- ③ たくましい子（笑顔ですごし、健康で安全な生活ができる）「健やかな体」

・ あいさつとありがとう

・ 「できた」をふやそう

合い言葉は三つの C

Challenge チャレンジ「新学習指導要領を踏まえた取組」

Change チェンジ「ポストコロナの学校行事の創造・創意工夫ある業務改善」

Charming チャーミング「表情よく活動し、信頼感のある学校」

目指す学校像

- ① 児童生徒が「できた」を実感し、表情よく活動する学校
- ② 保護者が安心でき、信頼できる学校
- ③ 関係機関や地域と連携し、信頼される学校

目指す教職員像

- ① 児童生徒を大切にし、保護者や地域、関係機関と連携する教職員
- ② 指導力・相談力の向上に努め子どもたちの可能性を引き出し、伸ばす教職員
- ③ 適切な支援・指導についてチームで相談し、表情よく実践する教職員

3 本年度の重点項目

ポストコロナの新しい学校教育の方向性を踏まえて

- (1) 特別支援学校の専門性に裏付けられた教育活動を行う
- (2) 保護者や関係機関・地域と連携する
- (3) 安心・安全な学校づくりを行う
- (4) 指導力・相談力を高める
- (5) 業務改善と確かな学校運営を行う

4 具体的方策

(1) 特別支援学校の専門性に裏付けられた教育活動を行う (子どもたちの可能性を生かす、引き出す教育の充実)

- ① **人権尊重の理念**を十分に認識した教育活動
- ② **児童生徒や地域の実態並びに児童生徒の障害の状態等を考慮して本校の特色を生かした教育課程の編成**
(・合わせた指導の教科目標、評価基準の明確化)
★「どんな授業をするのか」ではなく、「何のために授業をするのか」
手段ではなく目的が大切。
- ③SDGs の視点を踏まえた教育活動の実施
- ④産業現場等の実習やデュアル実習等、系統的な**職業指導の充実**
- ⑤小・中・高等部の一貫した**早期からの進路指導の充実**
- ⑥支援体制の整備による**迅速かつ組織的な生徒指導**
- ⑦健全な生活習慣につながる**生活指導**の徹底

(2) 保護者や関係機関・地域と連携する

- ① **個別の教育支援計画**の趣旨説明と適切な活用
- ②学習状況の**丁寧な説明**と、相談支援を通じた**適切な情報提供と助言**
- ③ **各関係機関や地域**との密な連携
- ④ **地域財産を活用**し、地域社会と学校の学びを繋ぐ教育活動の推進
- ⑤ 特別支援教育のセンターとしての**地域支援の充実**

(3) 安心・安全な学校づくりを行う

- ①命を守る**安全指導の徹底**
(・感染症対策の継続 ・保健指導(命の安全教育) ・食の指導)
- ②事故防止や緊急時の対応など、**危機管理体制の整備**
- ③令和 5 年度版「小倉南教職員ルールブック」の活
- ④**個人情報等、情報管理の徹底**

（４）指導力・相談力を高める

- ① 主題研究の推進
（研究主題「育成を目指す資質・能力を明確にした指導の充実」
～マトリックス表を活用した授業実践～）
- ② 「自立活動」の個別の指導計画に基づく指導の充実
- ③ 全教員による、組織的な若年教員の育成と専門性の向上
- ④ 研修と授業研究による学校力の強化
- ⑤ ICT等の活用や教材教具作成の積極的推進と情報共有
- ⑥ 外部人材の積極的・効果的活用

（５）業務改善と確かな学校運営を行う

- ① 創意工夫ある業務改善の推進と協働する職場づくり
- ② 学校事務職員の学校運営への積極的参画
- ③ 確実な会計事務処理と計画的・効率的な予算の執行
- ④ 学校自己評価・学校関係者評価等を生かした学校運営